

広土会新聞

第7号

2002.3.1 発行

発行所 広島工業大学 広土会
〒731-5193 広島市佐伯区三宅2丁目1-1
TEL 082-921-3121

巻頭言

2002年を迎えて思う

土木技術者の能力と倫理



広土会会長
島 重章



学校法人鶴学園理事長
鶴 襄



広島工業大学学長
櫻井春輔

21世紀がスタートした昨年は、3月の芸予地震、夏の猛暑続きといった地盤・気象変動を体験致しましたが、海外では9月11日に発生したニューヨーク同時多発テロ事件と、その後の多国籍アフガニスタン攻撃など、地球に溢れた人類が今世紀をどの様に乗り切るのかと不安感を煽り立てる年でありました。

ここに2002年の新たな年を迎え、大いなる期待と混沌とした流れを振り払うかのように、私たちの生活もスタートをきったのであります。広土会会員の皆様にはますますご健勝、ご活躍のこととお喜び申し上げます。

土木建設分野におけるニュースは、公共事業に対する関係予算の見直し、道路4公団の廃止民営化、入札・契約適正化法の施行、セネコンの債務免除と破たんなどです。これまでに無い土木建設業界への風当たりがますます強くなる一方で、リサイクル、ISO、コスト削減などの声が高まると共に、既設構造物の劣化問題や自然災害の被害の多発傾向をもたらしたのであります。広土会会員の皆様も大なり小なりにこれらへの影響を受けておられることと憂慮いたしております。

さて、広土会は昭和43年10月に、櫻井季男教授(現学長の父上)が提唱されて発足以来、本年で35年目となります。この間、土木工学科および建設工学科を卒業された広土会会員は総数約4,000名に上ります。

しかしながら、会員数が多くなればなるほど情報の伝達が希薄になり、広土会会員間の連絡が届きにくいことも事実であります。広土会本部におきましては、毎年の支部長会議を継続して開催し、大学の現状を説明させていただき、各支部からのご意見、ご要望を拝聴し、広土会活動の活性化を図る資料とさせていただきます。

そこで広土会を活性化していくために、卒業生への支援活動の一環と致しまして、昨年から技術士受験講習会の指導を開始致しました。今年度は講習会受験生(広土会会員)の50%が合格となり、活性化のための具体的な方向性を見出すことができた感が致しました。

また広土会広島西支部が廿日市市及び佐伯郡を中心に昨年発足し、講演会やゴルフコンペの行事を開催するなど、地域の活性化を図るための会合を積極的に進めておられます。

広土会は皆さんのためのものです。櫻井季男先生が言われていた「打てば響く広島工業大学卒業生」として、混沌とした世相の荒波に向かっていける会員でありたいと思っています。そのために、皆さんのほうからこの広土会を盛りたてていただきますよう、よろしくお願い致します。

どんな事が起きるのか全く予想がつかない目まぐるしく変貌する現代社会の中であって、将来の大学展望を語ることは大変むづかしい。地球環境をはじめ人間模様まで多岐にわたって超スピードで変化する国際潮流時代に、ポピュラーな語彙も色褪せ断定的な言葉もファジーになる。(ちよっとかっくよく書きすぎたか?反省)では将来について今何が語れるかと頭脳を模索したが、私自身の小さな個人的願望しか出てこない。そこで今回は、私が卒業生にこうあって欲しいと思うことを書いてみた。

一番の願ひは、先ず地球自然環境の保全に全世界の人間が丸くなって邁進することである。本大学は時代に先がけて環境学部を平成5年に新設し、この問題にいち早く取り組んできた。社会人として働く卒業生達が、地球自然の生態系を守るという原点を忘れずに、各専門分野で活躍しているものと期待している。社会文明が発達し、私たち人間が快適で便利な暮らしを確保しようとするほど、地球は汚染され、自然環境は破壊に追い込まれる。この矛盾に人間の叡智で臨み、自然界と人間社会の好ましい共生を切に願う。

先日、日本からフィリピンに紙資源として輸出された膨大なゴミを、私はテレビ画面で見えて驚いた。送られた荷物を開けてみると資源とは名ばかり、大部分はゴミの山で使い古しの注射器や紙おむつなど再生不可能な医療廃棄物がほとんどだった。中味が違つてフィリピン側が受け取りを拒否し日本に送り返してきた。資源ゴミと偽って輸出した日本商社の不正輸出。本当に残念でたまらない。どうしてこのような不誠実な事をしたのだろうか。只金儲けのためか。先進国日本が他国を騙すこのような行動は決して許されない行為である。いやそのような悪を阻止することの出来る勇気ある人を育てるのが、現代社会の人材教育ではないのか。他国民に対する礼儀をわきままえ、善悪の判断をしかと身につけた道徳的・倫理的人間としてまた、国際性をもった心豊かな卒業生であって欲しい。

先日財団法人広島ピースセンター主催による、日本語で発表する平和弁論大会に参加した16歳の少女が、大会後本学を見学に訪れた。彼女は発展途上国インドネシアの高校生で、将来は医学を勉強し医療に従事したいと熱く話していた。それを聞きながら、私は何故発展途上国の若者の目は生き生きと輝き、好奇心と意欲に溢れているのだろうかと思ひ寄せられた。毎日私が大学で接している日本人学生には、彼女のような生命力あふれる勇気と壮大な目標設定を感じられない。何故だろうか。医学部進学にはまだまだクリアしなくてはならないハードルが沢山あると深刻な面も語っていたが、彼女は自分自身の力で、更なる挑戦を重ね、世界を舞台に飛躍して医学の道に進んでいくと抱負を語っていた。その姿に、私は昭和31年広島高等電波学校創立次いで高等学校・工業短期大学・広島工業大学と設立した過去の事を思い出し感慨無量のものが有ります。ここで私は同窓生諸君に参考になればと思ひ私の歩んできた苦難の道で何を指針として歩んで来たか書いてみた。

よく世間の人々が「先生はいつ頃から高等学校新設・大学の設立の計画をなさったのでしょうか」と聞かれることがよくある。その時の答はすべて同じです。生徒、学生が上級学校に進学したいという気持ちがあったのでそれに促して今一つ上級の学校を設立した。

元来私は人間としても矮小であり、資金がない、共同協力者もいない。只学校設立が出来れば生徒・学生が喜ぶその夢が実現するよう祈った。全てに祈り感謝した。銀行からお金を借りたいと思つたら、お願いし貸していただきたいと祈った。学生諸君が多く入学して欲しい時も又祈った。全てに祈った。思えば校祖鶴虎太郎先生も同じ状況のもとで私塾から中等学校令による正規の広陵中学校を設立された。校祖と私の共通点は、共に貧乏で資金がないのも全く同じであった。祈りが唯一であり、全てであった。卒業生の皆さんが何かやりたいことがあればあらゆる場面を予想し、小さい事も見逃さず神に祈り、前進し全ての事に感謝し、又一步進めばよい。

広土会会員の皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。さて、土木業界はいま非常に厳しい状況におかれています。小泉内閣の構造改革の路線にそって道路公団等の特殊法人の見直しが進められるなか、高速道路建設の発注延期、さらにはエネルギー行政における電力の自由化によって各電力会社の大規模発電計画が軒並みスローダウンするなど大規模建設プロジェクトは非常に厳しい状況にあります。我が国の社会基盤はいまだ欧米諸国に比べて脆弱であり、今後も引き続き整備を進めなければなりません。もちろん不必要な建設計画は再検討し、限られた資源の有効利用を図ることは言うまでもありません。しかし、土木行政に携わる公務員、設計施工に携わるコンサルタント及び建設会社の土木技術者も反省点は多々あります。バブルの時代に役所はもちろん、第三セクター、さらに建設会社等は大きな夢を持って大規模土木開発プロジェクトを推進しました。しかし、バブルの崩壊によって中断したプロジェクトも少なくはありません。また、大規模な建設を進める中で、自然環境・景観を破壊する結果になったことも否めません。それらは土木業界の地盤沈下のみならず負の遺産として日本経済全体に大きな影響を与えていることも事実です。このような状況を考える時、土木技術者の責任は重いものがあります。したがって、土木技術者は広い視野に立ち、自らの行為を常に厳しく律しなくてはなりません。これがいま土木技術者の倫理が問われている所以であると思ひます。

土木技術者は従来、所属する機関あるいは企業などにおいて、基本的には終身雇用や年功序列のなかで組織の一員として仕事をしてきました。しかし、いまは終身雇用から、個人や組織がそれぞれ相手方を適切に評価し、それに基づき雇用する契約社会に移行しようとしています。そこでは当然のことですが、個々の技術者は個人の責任によって、より高度な社会的役割を果たす事が要求されます。そのために技術者としての倫理が従来以上に求められます。

このように社会の仕組みが変化するなかで、土木のプロジェクトの進め方も変わってきています。従来は業界の内部の強い同業者意識に基づき、閉鎖社会において互いに安心して作業が進められてきました。しかし、今後は見知らぬ他者との共同作業が増えてくるでしょう。たとえば、最近の合理的な設計施工を追求するために実施されるVE検討などにおいても、第三者がチームのメンバーとして参画することになります。そこではまずパートナーとして信頼できるかどうかが重要です。すなわち、相手が誠意を持って仕事を行うか、また、相手が仕事を遂行するための十分な能力を持っているかを確かめなければなりません。その場合、互いの誠意の基になる倫理と、能力の証明としての資格が欠かせません。

いま、世の中はグローバル化の波があらゆる分野に波及しています。したがって土木技術者は今後海外での仕事はもちろん、国内においても海外企業とのジョイントベンチャーなどにおいて、見知らぬ他者とパートナーを組む機会が多くなると予想されます。その場合、頼りになるのは技術者個人の倫理観と能力です。能力を保証するのが資格であり、その資格は国際的に共通のものでなければなりません。

海外で日本の企業が土木工事を受注するとき、そのプロジェクトに携わる技術者の名簿を提出しますが、アメリカの企業であればP E (プロフェッショナル・エンジニア)、イギリスであればC E (チャータード・エンジニア)と資格が明記されます。しかし、日本は「設計部長」などの肩書きを書くことになるでしょう。その場合、日本の設計部長の能力を国際的に保証するものはありません。いままでは、国内だけの仕事ですから、大手企業の設計部長であれば十分に資格ありと判定されてきたわけですが、国際プロジェクトでは通用しません。もちろん日本にも「技術士」と言う資格がありますが、これは国際的にはまったく認知されていません。ちなみに東南アジアを中心にA P E C エンジニアの資格がありますが、これは国際的に認められています。このような状況のなかで1999年11月に日本技術者教育認定機構(JABEE)が設立されました。これは個人ではなく、大学等の技術者教育プログラムの認定を行い、



そのプログラムの国際的な同等性を確保するとともに、国際的に通用する技術者を育成しようとするものです。すなわち、これは世界的な認定資格を目指すものです。JABEEにおいては当然のことですが、倫理は非常に重要な科目内容として位置付けられています。

2000年6月に土木学会制定の倫理規定が全面的に改定されました。そこでは、人類の福祉向上を技術者の使命として定義し、そのための機能集団の構成員の技術者がどのような倫理を保持するべきであるかと言う観点から定められています。その倫理規定のなかで、第4条に「自己の属する組織にとらわれることなく、専門的知識、技術、経験を踏まえ、総合的見地から土木事業を遂行する。」と述べられています。しかし、第8条には「技術的業務に関して雇用者、もしくは依頼者の誠実な代理人、あるいは受託者として行動する。」と述べられており、この二つの条項が互いに矛

盾しているように見えます。しかし、これは倫理的な判断では幾つかの対立概念を相対的に判断する必要があることを強調しているわけです。すなわち、雇用者の代理人としての立場と、自己の所属する組織にかかわらず総合的見地を持つべき立場とが併記されていると見るべきです。すなわち、ある具体的な場面において、技術者本人がその置かれた立場から判断してその行為を決するということが求められることを意味します。このことはチームの一員として仕事をする土木技術者にとって非常に重要な点であると思います。

土木学会では、今回この倫理規定に基づき「土木学会認定技術者資格」を制定しました。これは、土木技術者の倫理観と専門的能力を有する土木技術者を評価し、これを社会に対して責任を持って明示することを目的としています。この資格は4つのランクに分か

れています。すなわち、特別上級技術者、上級技術者、1級技術者、2級技術者です。先日、まず特別上級技術者の試験が東京大学で行われました。この資格制度が対象とする「土木技術者」のイメージは「倫理観を持つ土木技術者」、「専門的能力を持つ土木技術者」、「国際的に通用する土木技術者」です。広土会の会員の皆様もこの資格に挑戦して欲しいと思います。

以上、土木技術者の能力の認定（資格）と倫理に関する現状について述べました。先にも述べましたように、これからの土木技術者は社会に対して個人として責任ある判断と対応が要求されます。私たち土木技術者全員が強い倫理観を持ち、国際的に認知された資格を有する時、その活躍の場は飛躍的に広がることになるでしょう。会員の皆様のますますのご健勝ご活躍を祈念いたします。

新任の先生より一言



新任挨拶

建設工学科・特任講師
Basem Abdullah(バセム アブドゥラー)

経歴

1990年9月30日 ダマスкас・シリア・工学学部土木工学科卒業

1995年4月1日 九州大学院工学研究科土木工専攻 研究留学生 入学

2001年4月1日 広島工業大学 講師 以上 科学的達成の年

私は、新しい年を迎えるにあたって広島工業大学のみなさん(教員、生徒、職員)にご挨拶したいと思います。2001年は良いことも悪いこともあり、私たちが獲得した知識以外に過ぎ去っていきました。

去年の自己評価をすることは重要です。なぜなら、以前の経験なしにパーフェクトな仕事はできないからです。5分間休息をとり、そして、自分自身に簡単な質問をしてみたらどうだろう。「去年、自分がしたこと、満足しているのか？」もし、あなたの答がYesで、そして、あなたが、自分の仕事が優秀であり、他の人たちに認められていると信じるなら、そのとき、私は、土木工学科の一員として感謝したい。しかし、あなたの答がNoならば、そのとき私は、今年あなたがベストを尽くすように励ましたい。我々自身2002年を科学的な達成の年にするためにできるだけ努力することを約束しよう。

Happy New Year



「私と迷路」

建設工学科・特任助教授
平田富美子

昨年四月に赴任してまいりまして、カウンセリングルームでの面接と教職科目を担当しております。京都盆地にずっと暮らしておりますので海の見える景色は珍しいうえに、広工大のキャンパスは高低差が多く、建物の配置も複雑で、歩いて行くと海が見えたり、隠れたり、次々と景色が変わるの思わず見とれてしまいます。

キャンパスへのアプローチも幾通りもあるようですが、私は今、3つのルートを使っています。荷物の多い時はバスで「工大上」まで来てブックセンターの横の坂を下りてきます。朝登校する時は、「楽々園」で下車、岡の下公園の松林と梔子の生垣の間の砂道を通ってきます。この梔子の生垣は、初夏の頃次から次へと大きなつぼみが咲いて、今まで見たことのないくらい見事で、純白の花が一杯咲き素晴らしい香りの中を歩いてくるのは幸せな気持ちでした。夕方もう暗くなっている時は、体育館の横からスーパーズミに出て、ちょっと買物をして「山陽女子大前」から広電に乗ります。この3つのルートは人とお話の中で聞いたことをヒントにウロウロと探検して発見したものです。急いでいる時や汗が出るような暑い季節には、所要所要のエレベーターも活用しなければならず、幾通りもの選択肢が

あって迷路のように色々なルートや景色が一杯詰まっている広工大キャンパスをととても楽しく思っております。

さてカウンセリングルームですが、大学会館3階に新設されました。広い窓には陽を受けた緑が広がっていて、とても明るく、それでいて北向きのためかどこか静かな落ち着いた部屋です。会館は四階が学生ラウンジ、一・二階は食堂で時々とてもおいしい匂いが漂ってきます。お昼ときにはワーツと会館全体が食事に突進する学生達の熱気に包まれて賑やかです。一号館や新四号館への連絡橋もあるので学生の出入もあり来室しやすいのでしょうか、保健室やチューターからのリファーマにまじって自発的に来室する学生も4月当初よりあり、特にポスターを掲示してからは増えたように思います。

来室する皆さんは、様々な問題を抱えていますがそれぞれに真剣で、それだけで報われる思いがします。自分の進路を決める時に、誰も自分がどうい人間で何を望んでいるのか、ある程度把握していなければ身動きできません。「親や友達や自分が自分だと思っているものは本当に自分だろうか」ということを考え始めたら、その事がある程度解決しなければ前に進めません。

また、いわゆるトラウマというようなことがあったり、厳しい環境から自分を守るために、知らず知らず身につけてきた鎧、幾重にも着込んだ防弾チョッキ、それが段々に自分を締めつけ、自分の自由を奪っていく時、それをソツと脱げる場所が必要です。自分の身に合うように調節し直さなければなりません。不必要なものは捨てなければなりません。

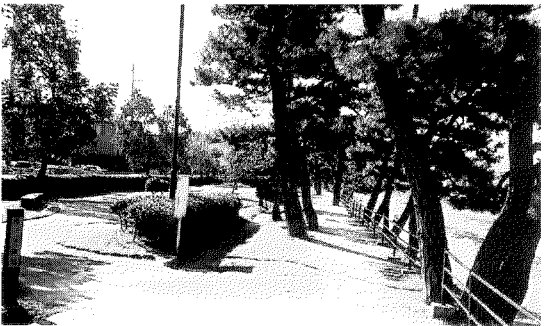
一生の岐路ともいえる大学での四年間に、このような仕事を学業の傍らにどうしてもやらなければならない学生達がいいます。その手助けを少しでもできればと願っております。

このような学生が出口を求めて辿る道は真暗闇の複雑な迷路を手さぐりで進むようなもの、私もクライアントが行くところならどんな迷路も厭わないけれど、この作業はかなりの集中力が必要です。集中力が続かない時、クライアントを見失うこともあります。でもそこは人間同志、クライアントも本当にカウンセラーを必要としている時は立ちどまって待ってくれるのです。行きつ戻りつしながら二人の共同作業を進めていきます。

真剣に生きようとする学生達との出会いを通じて、広工大に来る前に感じていた不安が消えて、私は本当に自分を必要とされている場に居るのだという手ごたえを感じることができるようになったことを嬉しく思っております。

授業については改善すべき点もあり、課題もあります。希望を持って来年度に進んでいきたいと思っています。

一方でまたキャンパスや周辺の探索にも精を出し、皆様方との交流の輪も広げてゆきたいと願っております。



プレストレスト・コンクリート構造物、設計、施工

極東工業株式会社

代表取締役社長 藤田 公 康

本 社 広島市東区光町2丁目6番31号

支 店 東京・大阪・広島・福岡

営業所 千葉・横浜・名古屋・神戸・四国・岡山・松江・鳥取
山口・北九州・大分・熊本・宮崎・長崎・鹿児島・沖縄

工 場 江津・大分・高宮

MASUOKA

Architectural Contractors & Ecological Harmonizer

株式会社 増岡組

本 社 東京都千代田区丸の内1-8-2 ☎03(3284)9780

呉本店 呉 市 中 央 1 - 6 - 28 ☎0823(21)1441

広島本店 広島 市 中 区 鶴 見 町 4 - 25 ☎082(504)5050



新任挨拶

建設工学科・講師
大東 延幸

平成13年4月1日に建設工学科の専任講師として着任いたしました大東です。着任して約10ヶ月がたちましたが、自己紹介を兼ねて新任のご挨拶をいたします。以前は、平成7年4月から広島大学に、平成10年から呉高専に勤務しておりました。専門分野は、都市計画・交通計画です。前々任地では大学助手でしたので研究と庶務の比率が半々くらいでしたが、前任地では高専講師でしたので、ほとんどが教育、しかも厚生補導の様な仕事が時間的にも多く研究の比率は少ないものでした。

私は、実家が奈良（といっても事実上大阪の一部の様な所）で大学院入学までを過ごし、大学院時代は東京に居りました。広島に参りまして今年で7年目です。交通計画の視点で人口100万人前後の広島都市圏というところを見ますと、東京都市圏や京阪神都市圏と比べて、密度の点で公共交通機関が成立しにくいのですが、都市中心部を支えるためにはマイカー交通では輸送力が足りず公共交通機関が必要であるという、ある意味で交通計画的には難しい場所であるということを実感しております。難しい場所ですが難しいということは、解決しなければならない問題が多くあり、研究テーマもあるということでありです。本年度から、前任地ではマンパワー的にできなかった広島都市圏の交通をいろいろな指標で表す作業を卒論生の数も多いのを幸いにはじめております。

都市計画という分野は建設系の中で力学的・数学的な思考に基づかないため、どちらかというと文系的なイメージがあるようで、現に私は建設工学科の社会建設コースの所属ですが出身学部が建築学科の計画系ですので、どちらかというと力学的・数学的な思考に基づかない発想をしがちでした。建設工学科は土木と建設の両分野が合わさった学科ですので、数学的な思考に基づく研究にも分野を広げるため現在勉強中です。そう有意味で、本学科は理想的な学科だと思っておりますので、微力ながら本学科のために頑張っていきたいと考えております。

就 職 状 況



建設工学科(建築工学コース)の就職状況

建設工学科・助教授・就職委員
岩井 哲

2001年において過去最大の失業率を記録した社会の情勢はそのまま建設業界に大きく影響し、就職内定状況にも直接関わっています。それでも今年度の就職内定率は、12月時点でなんとか80%を越えました。求人企業件数・求人数とも昨年度よりはやや多く、一昨年並みになっております。特に公務員の求人は近年になく多かったようですが、合格内定はなかなかもらえない状況です。求人は7月頃までは昨年とほぼ同様だったにも拘わらず、特にそれ以降は建築系企業からの求人が激減し、月別の就職内定率がその分だ



FUJITA

“高”環境づくり フジタ

け落ち込んだ形となりました。7月頃までに内定を得られない場合、応募できる企業を捜すことは非常に困難になっています。平成13年度の卒業予定者は82名（うち女子学生11名）で、12月の時点で大学院進学者は5名、就職希望の70名のうち内定者が58名（建設業40名、製造業2名、不動産業2名、設計・サービス業7名、公務員2名、その他5名）です。女子学生の就職は以前から厳しい状況ですが、各自が早めに積極的に動いたこともあり、10名が内定しています。

ここ2、3年の傾向として、企業は真に必要となる人材のみを採用したいがために、その選抜の目は更に厳しくなっているようです。企業からの求人が従来通り来て、大学推薦を得ても、一次の筆記試験で学力を問われ、ふるい落としに掛けられています。国語・数理科目の基礎的な能力を蓄積するようSPIなどの地道な受験対策がまず必要で、二次の面接試験では、やる気と、他人とのコミュニケーション能力と、気配り能力を問われますが学生にとってはなかなか厳しいようです。就職指導においては大学推薦の場合は、今年度も、昨年度と同様一人一社制で行いましたが、1回目の応募で内定が得られるのは難しく、内定したのは三分の一程度のようです。

本学では、3年次生の夏頃からガイダンスや意識調査等を通じて、就職活動への意欲高揚を促したり、準備の指導を行っています。危機感をもって臨む姿勢がまだまだ足りないようです。また自由応募のかたちで求人を行う企業が増えており、住宅関連企業はほとんどが自由応募です。大学推薦・自由応募併用の企業も増えており、自由応募でも最終段階で大学推薦を要求する企業もあります。現在は、インターネット等を通じて、大学を介さず、企業に直接アクセスして、応募する形が増えつつあります。

大学院の建築工学科は4名（うち女子学生1名）で、全員第一希望の企業・設計事務所に合格内定が得られたことは喜ばしいことです。近年は高度な技術、知識の修得を目指して大学院へ進学する者も増えており、本学としても進学を積極的に勧めています。学費の問題も大きく、国公立の大学院に優秀な人材が流れる傾向にあるのは若干残念な気がします。



建設工学科（社会建設工学コース）の就職状況

建設工学科・助教授・就職委員
石井義裕

景気悪化の波は建設業界においても深刻な影響を与え、卒業学生の就職内定状況も厳しくなっています。今年度の求人数・企業件数は昨年度よりは増加していますが、一昨年度よりは少なくなると考えられます。求人数は増加していますがが本年度は卒業予定者が例年より多い関係で求人倍率が昨年比約一25%となっています。企業からの求人は3月頃から始まり、6月・7月頃までが多くなっています。内定状況も6月・7月にピークを迎えており、8月になってからの就職活動は厳しいものとなっています。本年度の社会建設工学コースの卒業予定者は103名で、就職希望者86名、大学院進学希望者14名となっています。平成12年12月末現在での進路決定者は89名となっています。進路別にみるとは就職希望者の内、建設業：約82%、建設サービス業：約10%、製造業：約4%となっています。公務員を希望する学生も例年同様10数名いますが採用は一層厳しくなっており、希望通りの官公庁への就職は難しくなっています。一方で、大学院への進学は増えており、今年度の場合、本学大学院へ7名、他学大学院へ5名の計12名の進学が決まっており、高度な技術・知識の修得を目指す学生が増えてきています。来年度以降も大学院に進学する学生が増加することを期待しています。

就職活動における最近の傾向として、企業における求人の早期化や就職活動のエントリー方法の多様化に伴う就職活動形態の変化が見られます。大学においても3年生の10月以降に毎月のように各種就職セミナー・業界研究・講演会などを実施し、就職へ向けての意識を明確にしたり、就職活動準備の指導を行っています。2月中旬には就職・進学懇談会を開催し、春期休業中に学生が企業訪問や入社試験に積極的に取り組めるようにしています。採用形態にも変化が現れており、従来の大学推薦だけでなく、「大学推薦・自由応募併用」「自由応募のみ」「インターネットを通じてのエントリー」等の企業が増えてきています。ただし、自由応募でも最終的に大学推薦が要求される場合もあります。

企業の学生採用については、例年以上に厳しい採用になっているようです。大学推薦を得てもSPIや筆記試験で基礎的な学力が不足している学生は、第1段階の合格が難しいようですので、SPI対策や専門分野について積極的に準備をしておくことが重要です。また、面接試験についても、十分な面接試験の練習を行ってから臨むことが肝要です。来年度に就職を希望する学生には十分な準備を行った上で、積極的に就職活動を行って欲しいと思っています。

退任挨拶



退職にあたって

建設工学科・教授
吉國 洋

平成14年3月31日をもって定年退職することになりました。広島工業大学に参りまして7年になります。永いようでもあり、あっという間の7年でもありました。それでもおよそ80名のゼミ生の皆さんと楽しく過ごさせていただきました。どんな教師だったかと問えば、大方の学生さんは、よく酒を飲む、話好きの先生だったと答えるでしょう。土木の仕事は多岐にわたり、一人では処理できない問題に必ず遭遇します。そんな時、頼りになるのは同僚でもなければ、ましてや上司ではありません。クラスメートです。クラスメートにそっと教えてもらいましょう。そうすれば、自分の能力を何倍にも膨らませることができます。社会ではそんなクラスメートを持つ技術者が素晴らしいと評価されます。助け合えるクラスメートの絆は学生時代に酒を酌み交わし語り合ってこそ培えます。そんなことを学生さんに語り、ことあるごとにコンパを薦めたものです。昨今のスマートな学生さんにとって迷惑な教師だったと幾分反省もしています。

私の専門は土の力学です。構造力学や水理学の対象材料は、それぞれ弾性体と粘性液体と決まっています、紛れることはありません。その点、土の力学の対象は、ある時弾性体、ある時弾塑性体、またある時弾粘性体、その他と取り留めがありません。この変幻の激しさが土の力学の全体像を掴み難しくしています。経験皆無の学生さんにとって見れば、分かったようで分からない学問だったことでしょう。実務について経験が増せば、少しずつ見えて来ると思いますが、分かり難い講義をした教師の責任として、できる限りのアフターケアをしたいと考えております。何か困ったことができた折りには気軽にご相談下さい。お待ちしております。

与えられた制限字数に達しました。それでは、退職にあたり広島工業大学建設工学科の発展と広土会の皆様のご活躍をお祈り致します。 多謝

芸予地震調査



平成13年芸予地震の特徴

建設工学科・教授
中山 隆弘

この原稿の執筆依頼を受けて、まず思い出したのが、平成11年の秋に広島大学で開かれた日本建築学会第19回地震動地域交流会での講演資料「1905年芸予地震（M7.1/4）」について」の中で述べた次の一文である。「広島県は比較的地震の少ない県であるが、それでも安芸灘を震源とする地震に限っても、これまでにマグニチュードが6を超える地震が1649年、1686年、1733年、1857年、1905年、1949年に起きている。1905年から94年、1949年から50年を経過した現在、当時より著しく都市化が進み、また、埋め立て地も増えた広島市においては、従前にも増して大地震に対する備えが重要になってきたように思われる。」

ただ、正直に告白すると、当時は、まさか1年半後にそのような規模の地震が発生するとは思っていませんでした。しかし、平成13年3月24日15時28分、後日「平成13年芸予

地震」と命名されることになる強い地震が、呉市の南東沖約20km（北緯34.1度、東経132.7度）、深さ約50kmを震源として発生した。幸い、地震の規模を示すマグニチュードMは6.7で、当地に過去最大の人的および物的被害をもたらした明治38年（1905年）芸予地震（M7.25）の規模よりかなり小さかったが、それでも、広島県の河内町、大崎町、熊野町で震度6弱、広島市、愛媛県松山市、山口県岩国市で震度5強と、広域に亘って、かなり強い揺れが観測されたのである。

地震学者によれば、今回の地震の原因は、四国沖の海底から北に向かって沈み込み、瀬戸内海の下で深さ50km程度に達するフィリピン海プレートが、その先端部分で圧縮力を受けて東西方向に引っ張られるように割れたために起きたスラブ内地震のようであるが、われわれのように建造物の被害を科学的に解明しようとする者にとっての関心事は、原因もともかく、地震動の振幅特性、周波数特性、さらには、その継続時間である。

ただ、被災した建造物の存在する地点の地震動記録は入手できないので、われわれは、K-NET（独立行政法人防災科学技術研究所・強震観測網）からの加速度情報をダウンロードして、代表的な数地点（家屋や斜面被害の多かった呉市、山陽新幹線の高架橋に被害が発生した三原市、そして、市営駐車場にかなりの被害が出た因島市など）の加速度記録を解析してみた。

因みに、呉市で観測された地震動と、兵庫県南部地震のときに神戸海洋気象台で得られた地震動を比較するために行ったスペクトル解析の結果によれば、呉市における今回の地震動の卓越周波数は、阪神・淡路大震災のときよりもかなり高い。神戸記録は1～3Hzに、呉記録は3～5Hzに大きいエネルギーの山が現れている。これは、今回の地震がスラブ内地震であることと、呉や広島が数万年前にできた花崗岩上の高々30m程度の浅い堆積層の上に乗っていることが原因であり、地震の規模に比較して木造住宅にあまり大きな被害が生じなかったのは、この理由によるものと思われる。

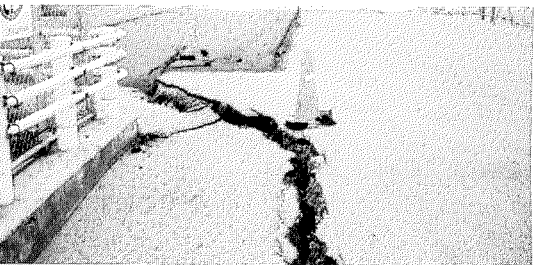
さて、今回筆者に書くように言われたのは、芸予地震の概要と土木建造物の被害であるが、幸いにも土木建造物の被害は比較的小さかったので、ここでは割愛させていただきます。関心のある方は、土木学会調査団（団長：香川大学工学部安全システム建設工学科野田 茂教授）によって纏められた報告書（<http://www.jsce.or.jp/report/>）をご覧ください。



建築関係被害状況

建設工学科・教授
浅野照雄

広島県内の被害は震源に近い呉市、東広島市周辺および広島市、廿日市市、大野町などの瀬戸内海沿岸地域に集中した。被害内容は全壊60棟、半壊497棟、一部損壊34,735棟（平成13年5月31日現在）である。そのうち全壊・半壊の多くは呉市急傾斜地の民家で、石垣やブロック塀の崩落によるものであり、一部損壊は屋根瓦やモルタル壁などの破損落下が多い。また、S造の建物ではブレース座屈の被害が、RC造では4階建校舎と本学図書館の柱のせん断破壊の被害が見られた。そのほか、1905年芸予地震では報告が見られなかった液状化現象による被害も広島市西部、廿日市市、大野町の沿岸部などで一部見られた。しかし、建築建造物は全般的に構造的な被害は少なく、屋根瓦、窓ガラス、天井板やエクспанション・ジョイントなどの非構造部材の破損落下が目立ち、耐震安全性に対する配慮の必要性が認識された。このように、地震動が200galを超える強震であったにもかかわらず広島市デルタ地帯の液状化現象も少なく小規模であり、建造物の被害の程度が比較的軽微で済んだ。



洋々と伸びのびと夢をかたちにー



洋伸建設株式会社

本社 広島市西区西観音町2番1号
電話 (082)292-8737(代表)

営業所 岡山、福山、呉、東広島、広島、廿日市、山口、四国

建設コンサルタント
和幸土木設計株式会社
(JTI YTI-CAD CENTER)

代表取締役社長 **磯 亀 兼 吾**
E-mail :wakohsec @lime.ocn.ne.jp

本社 ☎739-2106 東広島市高屋町福木2927-2
TEL (0824) 39-0380 FAX (0824) 39-0384
支社 ☎730-0847 広島市中区船入南2丁目5番11号
TEL (082) 295-2985 FAX (082) 292-6451
本郷営業所 ☎729-0415 豊田郡本郷町上北方
TEL (0848) 86-4586

環境と人との和の創造
HARMONY WITH NATURE



ISO9001
認証取得

総合建設業
株式会社 和田組
一級建築士事務所
代表取締役 **和田 一 雄**

本社/広島県高田郡高宮町房後125-20 〒739-1804
TEL0826-57-1314 FAX0826-57-0400
E-mail wadagumi@fine.ocn.ne.jp
営業所/広島・甲田

建設見学会

建設見学会

建設工学科 建築工学コース
山名 健介（4年）

12月20日(木)、建設工学科で第一回建築見学会を実施しました。今回は、象設計集団の富田玲子氏が設計した矢野南小学校を訪れました。参加者は2年生から大学院生まで40人程度で、幅広い参加者が見られました。矢野南小学校は、広島市が行っているP&C(ピースアンドクリエイト)事業の一貫として建てられた建物です。他にも多くの建物が計画されていますが、その中でも一番初めの事業です。コンセプトは、自然と共にある学校、地域や学校への愛着が生まれるような、ここにしかない学校、子供たちの身も心も心のびのび、いきいきするような学校、というようなことを目指して設計されました。この建物は、多くの着色がパステル状に壁や柱、またタイルにされているが、全体的に重くなく柔らかな建物でした。

建物の構成として、普通教科型で教室と教室が繋がっているため、繋げてワークスペースにすることができます。屋上には畑があり餅米を育てたり、多くの虫が集まる庭園があり学校内で昆虫採取が行えます。また、廊下を挟んで教室とベランダが一つのクラスであり、子供達がベランダで日なたぼっこしたり、お飯事なんかしているような想像をしました。建物と建物の間には理科の庭と造形の庭があり、水を使った色々な遊びができるようになってました。そこでは多くの子供たちが喜んで遊んでいるのが想像つきました。これからの学校建築のあり方ということを見て感ずることができ、こうしたいという思いが空間に現れ伝わる、こういったところが印象強かったです。

この企画は、浅野研究室の3年生が「何か建物を見に行きたい」という願いから実現したものです。こう言った自分の考えを人に伝えるということは、とても大切なことだと思います。これからもこう言った意欲的な学生が増えるといいと思います。

コンペ受賞

2001年度支部共通事業

日本建築学会設計競技「課題：子どもの居場所」
タジマ奨励賞受賞

建築工学コース・福田ゼミ

日本建築学会が会員を対象に募集するコンペ。支部共通事業として毎年課題を決めて実施されており、今日では若手会員の設計者としての登竜門として定着している。

2001年度の課題は、「子どもの居場所」。設計における条件はすべて自由であった。

支部入選した作品のうち1次審査・2次審査を経て全国入選作品が決定する。私たちは、学部学生の個人またはグループを対象に与えられる賞である「タジマ奨励賞」を受賞し全国入選を果たした。

私たち福田研究室は学部4年生9名のグループ。卒業制作と並行して行うため、ミーティングは夜中に集中した。9人で一つの作品を仕上げることは予想以上に大変なことでした。意見の衝突なんていうのは毎日・・・。もちろん皆良い作品にしたいくて想いが強くなるためなのですが。

私たちは、「子どもの居場所＝自分自身でつくる空間」ととらえた。大人に与えられるものや、既存の空間ではなく簡単につくれるのではないかな？

そこで、広島の特徴である川に居場所を浮かべることを提案。

その名は“choki*choki”。

チョキチョキ切った紙を浮かべ、その上でお昼寝をしたり、野球をしたり・・・。紙は航空用の梱包材であるタイベックを使用。タイベックは廃材として余っているので入手しやすいことや、水に強く、空気だけ通すという性質を持つ。この性質を利用して水に浮くシステムを考えた。そのシステムは、2枚のタイベックの間にスポンジをはさむという簡単なものであった。イメージとして、水に浮くオ

オオニバスに近いものをもっていたことと、子どもでもハサミで簡単にチョキチョキ切れることがあったので、薄くすることを考えた。

また、間にスポンジをはさんだことで、子どもの動きによって川に空気を送る。そのことで、川のバクテリアが成長し川をきれいにする。子どものときchoki*chokiで遊んだことで大人になったとき川がきれいになるという、川との成長という意味も含まれている。

図面の作成については、ここでも9人の威力を発揮し、コンセプトを充分表現できたと思います。

このコンペの勝因は、やはり9人の協力でしょう。何度も話し合い、いろんな意見を取り込み作成しました。もちろん受賞の知らせを聞いたとき喜びも9倍でした！

建設工学科での設計という分野では新たな歴史のはじまりだと思います。

この受賞により多くの設計を志す学生に影響を与え、受賞作品がふえることを期待しています。

そして環境デザイン学科と共に工大全体を盛り上げてもらいたいのです。

最後に、福田先生、二神先生、宮崎先生、祝福してください。多量の先生方、嶋渡さん、石川さん、福田研のみんなに感謝します。



オリゼミ

オリゼミについて

建築工学コース
久保 和也（2年）

私が2年前に参加した新入生オリエンテーションゼミナールは、クルーザーに乗って瀬戸内海を回遊し、日常見慣れない下からの視点で橋や島に接近して、橋などの構造物を見学しようという工学的な企画でした。私が印象に残っているのは、当日はとても快晴で見学には最高のシチュエーションであり、昼食もバイキング形式のとても豪華なものであったという事です。そしてメインの橋を熱心に見学していたのは、主役の1年生ではなく、同伴してくださっていた先輩方であったという事です。

オリゼミには建設工学科の先生方も同伴されており、一緒に昼食をとることができるので、その場で顔を覚えてもらい、その後色々お世話になることも可能です。

そしてオリゼミの最大のメリットは、やはり当日までに友達を作れないまま大学に来ていた1年生が、気の合う友達をつくるチャンスである、という事だと思っています。今回のオリゼミでは、1年生各自に名札を付けるように指示をされ、それで相手の名前がすぐに分かる、という工夫がされていました。そして船の中では、時折クイズが出題され、ユーモアのある商品が用意されており、今まで知らなかった相手と自然に声をかけ合える機会がたくさんありました。

私がオリゼミに出席して思った事は、このオリゼミがなければ、友達をなかなかつくれずに淋しいキャンパスライフを送る人も何人かでてきたと思います。入学して間もない時期に、こういうコミュニケーションを目的とした行事を行うという事は、とてもいい事だと思います。私もこのオリゼミでこれからのキャンパスライフをエンジョイできるすばらしい仲間を持つことができました。

大学祭学科展



学科展

社会建設工学コース
福谷 大介（2年）

学科展の何が大変かという、やはり準備期間でしょう。1ヶ月前から取り掛かり頑張っていたつもりでしたが、結局工大祭当日まで作業を続けてやっと間に合ったという感じでした。

学科展の内容ですが、テーマは「地震」です。僕ら広土会の学生役員でテーマを分担して調べて展示しました。僕は液状化現象について実験を交え、久保君は耐震工法、杉田先輩は地震のメカニズム、廣居先輩は過去に発生した地震の解析、をそれぞれ展示しました。僕の個人的な評価ですが、去年の学科展より内容は充実していたのではないかと思います。

2日間に渡り、学科展を行いました。初日はあいにくの雨で思ったよりお客さんは来られませんでした。しかし、それでも忙しく、僕たちは広土会の法被を着て、昨年はジュースにドーナツだった来訪者へのサービスを今年はあったかいお茶とお饅頭という渋い組み合わせに変えてもてなしました。

2日はどうにか天気恵まれ、多くの人が展示を観に来られました。そして、院生の方たちによる実験も加わり、大変ごたえのある展示となりました。

実は僕も初日にバケツ内で液状化を発生させる実験を行いました。見事に失敗してしまい大変恥かしい思いをしましたが、観ていた人が4人と少なかったのは不幸中の幸いでした。

結局トータルで展示を観に来てくださった人数は、175名でした。数字でみると意外と少なく感じるかもしれませんが、次々と展示室に入って来られる人にお茶を出したり、アンケートを勧めたり、展示について説明をしたりしていたので、ずうっと走り回っていた記憶があります。

最後に反省点を何点か挙げると、
・「文字が多い」といった意見があったので、もっと絵や図を多用する。
・場所が製図室でわかりにくいので、案内の看板を増やす。
・実験をしてくれる院生の方との打ち合わせが直前まで無かった。等、改善できそうなことがありました。

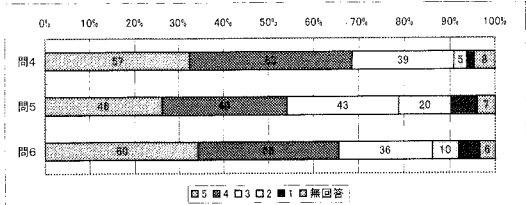
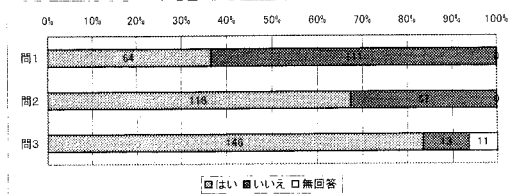
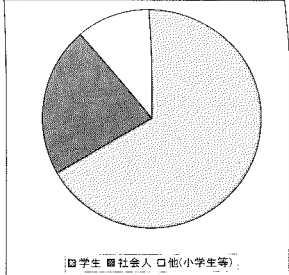
さて、来年は一体何をテーマにしましょうか、沢山やるべき課題はありますが、何をやるにしても余裕できるように早めにとりかかりたいと思います。



2001年大学祭学科展「地震」アンケート集計結果

	学生	社会人	その他	合計
11月3日	55	11	5	71
11月4日	61	28	15	104
合計	116	39	20	175

	男	女	合計
11月3日	39	32	71
11月4日	62	42	104
合計	101	74	175



【問1】工大祭ははじめてですか？ はい64 いいえ111 無解答0
【問2】建設工学科の学科展ははじめてですか？ はい118 いいえ57 無解答0
【問3】来年も学科展に来てみたいと思いますか？ はい146 いいえ18 無解答11
【問4】展示はおもしろかったですか？ 567 463 43 20 7
【問5】建設工学科についてよくわかりましたか？ 46 449 43 20 110 無解答7
【問6】パネル展はわかりやすかったですか？ 560 455 436 110 18 無解答6

人間と自然を
考える...

代表取締役 荒谷 壽一

〒730-0831 広島市中区江波西1丁目25番5号
TEL(082)292-5481 FAX(082)294-3575

明るく伸びる

代表取締役社長 伏見 幸彦

広島市南区出島1丁目33-61 電話(代)253-6161
(支店) 松江 (営業所) 三次・東広島・世羅

技術と信頼で
新しい未来を創造する

代表取締役社長 三浦 勝行 (土3期)

田岡康博 (土3期) 平加照彦 (土10期)
小川充司 (土11期) 児島一之 (土14期)
渡辺 茂 (建2期)

本社 〒731-0154 広島市安佐南区上安1-12-27
TEL (082) 872-3422 (代)
FAX (082) 872-2460

インターンシップ



インターンシップの体験談

社会建設工学コース

小野 俊哉（3年）

昨年、僕は大学の紹介でインターンシップに参加することが出来た。興味半分で先生の所に申し出たのだが、実際にインターンシップを体験できたことは大学生活でも貴重なことであった。

国土交通省 広島国道工事事務所（調査設計課）の体験談を話す前に、まず調査設計課の仕事内容を説明しよう。道路が出来るまで、多くの事が関係をしする。調査設計課は全ての事に関係していますが、この中でも設計協議を中心に動いています。実際、僕が研修していた時も、頻繁に設計会社が訪れてきて、図面を見ながら協議していました。また、図面には載っていませんが、設計書を作成するのにどの会社に依頼するか、どのぐらいの費用でやってもらうかなども、設計課が決定します。

さて、僕はこの課で交差点交通容量について設計基準と実測比較検討をしたのですが、具体的に言うと、渋滞している箇所を調査・検討して、交差点改良図を作成しました。

ただ改良図を作成するのではなく、渋滞の原因や渋滞と見なされる条件を把握し、設計基準に収まるようにやらなければならないので、いろいろな書物を見て作成しました。

僕が検討した交差点は、仁保2丁目交差点です。図2は時間別に車の渋滞長を調べたものです。交差点の形状も特殊な形をしていることが調査のきっかけになりました。事実、ここの交差点は朝・夕に集中して渋滞を引き起こし、運転手を困らせていました。そのような人の為になるように、僕の調査書が役立てば良いと願います。

インターンシップ最後の締めくくりが、広島国道工事事務所の役員の前での発表会です。この日はさすがに緊張して、足が自然と震えていました。

研修中、僕の為に歓迎会や送別会を催してくれたり、社内のボーリング大会にも声をかけていただいたり、本当の社員のように使っていただいて、毎日がとても充実していました。

来年、僕のようにインターンシップに興味がある人は、是非体験してみようことを勧めます。



夏期実習の報告

社会建設工学コース

堺 巨啓（3年）

1. インターンシップの実習内容

【目的】

ソフト面から見る福祉の川作りについて行政と市民団体の連携についてその方法に対する研究と提案

【内容】

- ・文献研究
- ・市民団体関係者からのヒアリング
- ・行政側のヒアリング
- ・既存施設の視察

2. インターンシップの感想

今回、国土交通省にインターンシップに行くことになり、その実習の中で大学でならうような技術的な知識などを中心的に用いて実習をしていくのかと思ったが、実際はそういったものは全くと言っていいほど使うことはなかった。渡された文献に少しだけ専門用語が載っているだけに過ぎなかった。実習の目的もハード的・技術的な要素ではなく、意見のとりまとめ方や意見の収集の方法に対する方法論的な考察という要素が強く、理系的というよりは文系的な内容が多かった。施設の視察について一応意見は言ったがハード的にどうこう意見を出すよりは、その施設の利用方法の拡大にはどうすればよいかがソフト的な面について主に考察することになった。

実習の内容は上記に述べた通りであるが、時期的に補正予算の問題や台風などで事務所が忙しくなってしまったこともあり八割方は文献による座学が中心だった。何百ページも文献を読み担当の係さんに質問を自分で自分に理解を深めた。一日中、本を読むだけで実習自体の内容としては物足りないものを感じたが、その分周りの観察もでき、公務員の仕事の内容や実情なども少なからず知ることができた。元々、自分のインターンシップの目的として実習の内容がどうこうよりは公務員とはどういう職業かということを見極めたいというのがあったので、実習の中での仕事の物足りなさはどうでもいい問題だったと思う。

今回の実習で一番大変だったのは一日中本を読むという仕事内容でもあるが、報告書の書き方であった。この仕事が一番大変だったと同時に実習中最大の収穫であったといえる。自分の考えを限られた枚数で理論的に伝える、ただそれだけのことが難しかった。何故その考えに至ったかを理詰めでかつわかりやすくするのが難しかった。担当の課長さんはフローチャートによる説明が筋の通ったものでないと報告書を読んでくれなかったので何十回も報告書とフローを書き直した。言いたいことが沢山あったが枚数が限られ筋を通すにはどうしても文章を削らねばな

らなく、その辺の選択をするのが難しかった。実際の文章は次からのページになるのだが、自分のなりにはそれなりに筋の通った文章になっていると思う。今回の実習は大変な部分もあったが、自分なりに色々な収穫があったと思う。

卒業生から



大学生活で得たもの

社会建設コース

杉田 知久（4年）

思いおせば4年前、入学式初日から遅刻して鶴記念体育館まで走っていたのが昨日であったかのように感じます。私の大学生活はこうして始まったわけですが、卒業にいたるまでにはいろいろなことを体験しました。広土会での学生役員としての仕事や、サークルの行事、アルバイト、語学留学、ボランティア、そしてもちろん勉学も。いま思い返してみると大変ではあったけど、なかなか貴重な体験だったのではなからうか？と、我ながら感じています。第一これらのことは学生時代でしか体験し難いことです。諸先輩方に話を伺うと、やはり社会人になってからはまとまった時間を作るのが難しいと聞きました。つまり比較的自由に時間を使えるこの学生時代は、自分のやりたいことを思いっきりやってみる良い機会ではないでしょうか。大学で学ぶことは講義だけではありません。後輩の皆さんはサークルでもなんでもいいので、是非「工大に居る間にこんなことをしたよ」と卒業後に言えるような充実した学生生活を過ごしてください。

そして一番大切なのが、それら共通の体験によって得たかけがえのない友人達です。お互いに助けあったり、ときには激しく議論したり、切磋琢磨し成長していきました。この大学時代に得た友人というのは社会人になり月日が経ったとしても、同じ時代を生きた人間として一生の友人になります。私もこの広島工業大学で卒業後も一生付き合える多くの友人に出会えたことに感謝しています。

最後になりましたが、いままで暖かく見守って下さった先生方、そしてこの大学に通わせてくれた両親に深く感謝したいと思います。



4年間を振り返って

建築工学コース

松森 博孝（4年）

私が、広島工業大学建設工学科に入学して4年が過ぎようとしています。今4年間を振り返ると、構造のおもしろさを「発見」できた大学生活だったと思います。

このきっかけとなったのが、1年生のときのオリゼミだったと思います。このとき錦帯橋を見たとき、「こんなに長い橋なのに何百年もっているのだろうか？」という疑問をもったのでした。この疑問は1年の私には解けるものではありませんでした。この疑問を解決するために講義を聞いて理解してやろうという気持ちが生まれたのでした。そして何ヶ月後に講義で分かり、理解できたのでした。また、構造を面白くしたのは3年に始まる建設工学実験でした。講義のみでは、理論値の計算のみで「本当に実物の材料でなるのだろうか？」という疑問を持続していました。しかし、講義で聞いた通りに挙動したときには驚きの連続でした。今まで私にこのような経験はなかったもので発見の連続を繰り返したからより構造が面白くなったのだらうと思います。

今後はこの「発見し続ける気持ち」を忘れずに研究していきたいと思います。

就職活動について



就職活動について

社会建設工学コース

広居 克哉（4年）

就職活動というものは、大変根気と努力がいるものです。私の場合は就職活動を始めるのが3月からと少し遅く、毎日あせりと後悔の連続でした。ですが、だからといって毎日をおろそかにせず、こつこつと努力してきたからこそ受かったのだと思います。

私は毎日のように就職部に受ける会社を調べに足を運ぶようにしていました。もちろん受けたい会社の候補が決めるにあたって担当教員や親とも相談しました。私の場合地元に近い会社を受けたかったので、親との相談はとても参考になりました。受けるところが決まっからはその会社の受験科目をひたすら学習しました。学習といっても、基礎的なことで、いままでも受けた授業の復習や、SPIなどの勉強の繰り返しです。面接の練習もいろんな先生からご助力をいただきました。毎日繰り返していると不思議とおぼえてくるものです。地道な努力は報われることはなくて

も損をすることはありません。できそうにないから後にするのはではなく、まず取り掛かって理解できるきっかけを掴むことが大事だと思います。

私が就職活動中やってみてこれは良かったと思う事は、常にメモをとっていたことです。アドバイス1つを受けるにしてもメモをとっているだけで身につく量が全く違ってきます。一時忘れていてもすぐに思い出せるのでかなり重宝しました。主にガイダンス時の教訓や会社訪問のとき聞いたこと、会社におられる先輩からうかがったこと、アドバイスなどをメモしました。分からないことや理解するのが難しいこと、重要なこと、忘れそうなことなどを書き込んでいたのですが、これらをもとにして自分が受ける会社について自分なりに書いておく対策が立てやすくなると思います。この会社はなにを重要視しているか分かるだけでも、面接で何を聞かれるだろうかある程度は予想できますし、今やらねばいけないことも分かると思います。面接前にメモを見ると落ち着くし、気をつけるべきことを思い出出し、頭も整理できます。とりあえず損はないと思います。

とにかくやるだけのことをやっておけば本番で多少だが心にゆとりができます。多少でもゆとりがあるのとないのでは大違いです。いつもどおり頭が回るとは限りませんが、そんなときに機転をきかせられるかどうか結果を大きく分けたりするので常に一生懸命を心がけた方が良いでしょう。

最後になりましたが御協力頂きました多くの先生方、そしてOBの方々の皆様に心より感謝致します。

尚、広土会学生幹事を引き継いでくれる後輩のみんながより一層頑張っていけるよう今後ともよろしくお祈りします。



就職活動について

建設工学コース

植平 知子（4年）

私は、父の影響もあり将来、建築関係の仕事に就きたいという夢を次第に抱いていきました。

私が中学3年生の時に発生した阪神・淡路大震災で、多くの建築物が無惨な姿に変わり果てた様子をテレビで見て大きなショックを受けました。地震に強く壊れない建築物を造りたいと思うようになり、構造分野について学びたいので広島工業大学建設工学科に入学しました。

就職活動は、3年生の夏休み前から始まる学校での就職ガイダンスに参加することから始めました。気持ちがたるんでくる時期ガイダンスが開催されるので、参加するたびに気持ちを引き締めることができました。

冬休み前から資料請求を始め、就職部にもたびたび足を運びました。資料を集めるにつれて、私はどのような職種に就きたいのかとても悩みました。行き詰まることも多々あり、先生方、友人等に相談することによって、気が楽になることもありました。実際に自分の足で動いて雰囲気を感じることも大切だというアドバイスを頂き、住宅メーカー、建設事務所、ゼネコン等何社か会社訪問・就職説明会に参加しました。新しい発見をすることも数多く、いい経験をしたと思います。

ずっと秘めていたスケールの大きい建築物を造りたいという思いから、ゼネコンに就職したい願望が次第に強くなりました。

諦めずに就職活動を進めていき希望通りに就職先が決まりました。

御指導を頂いた諸先生方や就職部の方、先輩、友人に心から感謝しています。

支部だより



第14回広土会関東支部総会について

関東支部長

梶野 良夫（2期生）

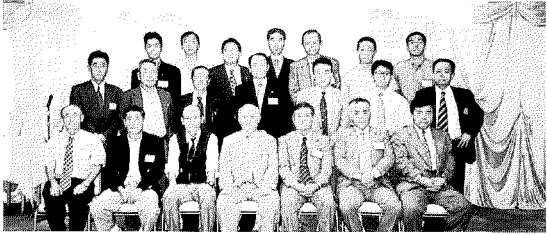
全国の広土会会員の皆さまにおかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。

昨年も相変わらず大事件、事故に明け暮れ、更に不況・リストラの語句についても毎度の報道になってしまいました。只、最期に待ちに待った内親王愛子様の誕生に救われた感じです。

さて、本年度支部総会は大学から島、宮崎両先生をお迎えし、総員22名で恒例の場所である「お茶の水駅」近くの「東京ガーデンパレス」において開催されました。まず、議事事項である収支報告と事業報告が承認されました。続いて広土会会長の島先生より大学及び広土会の現状についてのお話がありました。18歳人口の減少等の問題とか、現在の学長は初代広土会会長のご子息である桜井先生が在職されているとの報告がありました。私にとっても感慨深く時の流れを感じました。続いて懇親会は加藤孝二郎副会長の乾杯の首領により始まりました。全員の自己紹介と近況報告を聞きながら楽しく過ごしました。卒業以来久しぶりに再会した人や、今や先輩後輩が同じ職場で上司部下にな

っている方もいました。宮崎先生は関東地区に在住されており、我々にとって心強いばかりです。先生は技術士試験の指導もなさっており、それほど難しくないのでは非受談して欲しいそうです。興味ある人は先生に問い合わせてください。最期に記念撮影をしてから、4期の吉井進むさんの「締め」で解散しました。

なお、第15回広土回関東支部総会は平成14年10月19日(土)18時から東京ガーデンパレスにおいて開催される予定で予約済みです。

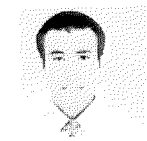


広土会関西支部総会



関西支部長
佐賀 勉 (2期生)

米国同時テロが世界に及ぼした衝撃の余波が残る一年でしたが、会員の皆様におかれましては、お元気で御活躍の事と思います。私の仕事の関係で、平成10年11月より平成11年12月まで、広島のに転勤しておりました。その折、母校の皆田教授には公私共大変お世話になりました。また平成10年4月には、私の恩師(故)櫻井季男教授の御子息、櫻井春輔教授が神戸大学より広島工大学長に着任され世の中というのは何かの縁で結ばれている事を痛感しました。わずか一年という短い期間でしたが、青春時代を過ごした広島を体験しました。広島では広土会の先輩で増岡組の竹内氏 同期の山陽技術社長の三浦氏、東洋建設広島支店副支店長の平谷氏には大変お世話になりました。また一年間関西支部長を引き受けていただいた西宮市岩崎課長にはこの紙面をお借りしお礼を申し上げます。序文はこれぐらいで、本題の広土会関西支部総会は、昨年10月7日(日)姫路にて総会を催しました。広島からは島先生に来ていただき姫路の神崎組土木部長の坂井先輩に御心力で20数名の出席で、大成功でした。支部長の初仕事で会員の方が、何名来ていただけると心配しておりましたが、多数の参加がありほっとしております。準備期間は8月から案内状を作成し9月には会員に送付しました。会員200名をかかえる関西支部のエリアが兵庫、大阪、京都、奈良、和歌山と広いので集まりに大変気をつかいます。200名の案内状送付から約一ヶ月総会までなのですが、出欠の返事をいただいたのが46名、住所変更で通知できなかったのが26名、残り113名が連絡がありませんでした。卒業して30年の年月がたちますと広土会全員で4000名、関西に200名、何々全員が参加できるのはむずかしいですが、平素同期の連中と交好を深めコミュニケーションを計っていただきたいと思っております。年に一回催される支部総会に友人をさそって出席されるようになれば、広土会の活性化が生まれると思います。広土会会員の増々の御活躍を希して挨拶とさせていただきます。



「川から陸を覗いてみると」

広島支部
牧野 克真 (26期生)

「うわっ。何、この目線の低さ！。こんな目線で水面を見るのは生まれて始めて。アメンボみたい。」

その後、徐々に慣れるにしたがって沈(転覆)をして、満面の笑みを浮かべ、川にプカプカ浮いて流れる。。

そう、老若男女を問わず、初めて川でカヌーをする場合、良く見かける光景である。

私は、今でこそ有名なこのカヌーを始めて、約8年が経過しようとしている。一口にカヌーと言っても、種類がかなりある。まず、艇がオープンデッキかクローズドデッキかで大別され、オープンデッキが「カナディアンカヌー」。クローズドデッキが「カヤック」と呼ばれている。このカヤックの中に、「リバーカヤック」、「ファルトボート(折りたためる艇)」, 海用の「シーカヤック」等がある。各艇の特徴として、カナディアンは、比較的、静水状態である川・湖ツーリングに適し、車で例えるとワンボックスカーのように数人で荷物が満載できる艇。一方、リバーカヤックは、一人乗りの艇で急流の瀬をガンガン下ることができ、ファルトは、荷物を積んで川をツーリングすることができ一人または、二人乗りの艇である。

そして、シーカヤックであるが、本来のカヤックは、このシーカヤックであり、海を舞台にイヌイット達が食料を得るために使用されたハンティング用の艇である。およそ4,5千年前からあるとされており、当時の構造は木や海獣の骨を利用した骨組みにアザラシ等の皮を縫い合せたものである。

この様に、一言でカヌーといっても、使用場所・目的に応じて艇が全く異なることがわかりいただけると思う。

私はこの内の、リバーカヤック・シーカヤック等で県内

外を問わず魅力的な川・海に出かけている。また、昨年カヌー協会・カヌー指導員の認定を受けたところでもある。

ところで、リバーツーリングをしながら陸上を観察してみると、ここ数年特に感じることもある。河原でのキャンプや宴会バーベキュー・遊泳等、レジャー目的で水辺を利用する人が増加してきたことである。

これは、アウトドアという言葉が定着して以来、レジャーの多様化・行政側の推進・利便性等もあり、河川を利用する者が増加してきたのではないかと思われるが、問題なのは、自然である川に対して、あまりにも無防備に近づきすぎていることである。「自己責任」で問題になった、玄倉川の中州でキャンプをして起こった事故のように、川には隠れた危険性があることを認識するなどの、河川利用者の意識改革が必要である。

私は、高校時代、登山部に所属し、ひたすら重力に逆っていた時代があるが、同じ自然であるこの山と川を比べてみると、わかりやすい。山の場合では、たとえ低山ハイキングなどであっても、山に登るという目的意識がはっきりとしており、心構え・装備などの準備が行われている。近年、中高年層でのハイキングもブームになっているようであるが、利用者がそれなりの準備を行ったり、山の知識等を学習したりしており、ある意味、極端に無防備に近づく人はいない。

玄倉川の事故以来、アウトドア誌等でも、従来のような川遊びの魅力紹介だけではなく、「川の危険性」の紹介が加えられるようになり、改めて利用者の意識改革の必要性を訴えるものも出始めており、今は、意識改革の過渡期にあるのかもしれない。

ところで、土木で河川というと、多自然・親水といった言葉が今や浸透しているが、私が在学中のころは、多自然(近自然)・親水性などが、色々と注目され始めていた時期であり、人がいかに水辺に近づけるかが注目されていた。しかし、在学当時二神ゼミにいた私は、教授に「初めての着衣泳」という一冊の本を紹介していただいた。着衣泳は、多自然の先進国でもある、ヨーロッパ等で盛んに行われているものであり、プール等での遊泳中だけではなく、登下校中や、予期せぬ事態で服を着たまま水に誤って転落した場合、いかにして泳ぐかを小学校等の授業にも取り入れ、積極的に練習をしているとのことであった。本を紹介してくださる時、「親水性が良くなり、水辺に人が近づくのは良い事だけど、溺れるときは海パンとは限りませんからね。」と教授が言われたことが、約10年経過した今でも非常に印象に残っている。今年も、もうすぐ暖かくなり、皆が水辺に近づく機会が増えるが、河川利用者の意識改革が本当に必要な時期にきているのではないかと、改めて感じている。

広土会新聞の発行に寄せて



広島県北支部
加藤 雅規 (17期生)

いよいよ21世紀も明けて、既に2002年となつてまいりました。我々、また諸先輩方、学生諸兄に於かれましては、心新たに新年のスタートを切っておられることとお喜び申し上げます。

ここ数年、私どもの建設業界におきましては、公共事業費の経費節減、事業費の削減等、非常に厳しい改革の嵐が吹き荒れております。

大手ゼネコンをはじめ、中小建設業の倒産のニュースは、三日と空けず新聞のネタになるという、大変不安定な状況の中、学生の皆さん、また先生方の就職活動のご苦労を案じる次第であります。

私は、県北の三次市を拠点とする建設会社で主に現場責任者を務めておりますが、日ごろから感じることを少し書いてみようと思います。

建設業に限らず、物を作るという行為には、昔から、「良い物を早く安く安全に。」ということが要求されています。

これは、もっともな事ですが、このことに疑問を感じております。建設工事に言い換えば、「規格に入る物を、工期限内に適正な利益を持って無事故で完成させる。」でしょうか？

以前から、最高の物は、いつまでも価値を持っています。例えば、私は持っていませんが、ライカのカメラ、車と言えば、トヨタ2000GT、どちらも性能は、現在のカメラ、車に及ぶべくもありませんが、どちらも機械としての作り込み、加工の精度の高さは、現在でも超一流ではないでしょうか？結果、持つことの喜び、使い続ける毎に湧く愛着というものを得ることが出来るのです。

無事故は、もちろん大切なことです。ガウディの建築に工期はあるのか？儲けた損したは、その年の決算が済めば過去のことではしかありません。機能や、体裁だけでなく、もっとまじめな物作りをしていかないといけないと思っています。

前置きが少々長くなってしまいましたが、ここ県北では、広土会県北支部(和田一雄支部長、國原定明副支部長)が活動していますのでその一端を披露したいと思います。

総会は毎年1回、1月の終わりに2月の初めにかけて開催されます。その他、2年に一度程度の割合で親睦旅行と、結構活発に活動しています。

総会には、先生方も御出席頂き、県北の状況を伝え、また、近年構造改革の著しい大学の状況などについて伺った

りと有意義な情報交換を行っています。総会の終了後は、三次市内の料亭や、ホテルを利用して、ささやかな親睦会を設け、お色気を交えて、思い出話に花を咲かせ、県北ならではの一夜をしっぽりと楽しんでおります。そして最後の締めくくりは、「工大節」、完全に歌えるようになったのは、卒業してこの総会に毎年来るようになってから、という人もたくさんおられます。まず、和田支部長(元応援団長)が音頭をとり一斉に合唱します。この時お店の人は少し引いてしまいます。でも、同じ教室で学んだ仲間を実感するひと時です。

総会、親睦会は、あつという間の短い時間ですが、先生方の元気な姿を見、我々の成長を見て頂く唯一の機会であり、とても大切な活動と思っています。

毎年出席して頂く、工大の先生方と県北支部の皆様にご感謝申し上げ、執筆を終わります。



『私の目標と近況』



広島県東部支部
本郷町議会議員
加村 博志 (3期生)

昭和23年11月8日生まれ
昭和26年 土木工学科卒業
学生番号 424057
住所 広島県豊田郡本郷町上北方1030
電話 0848-86-5032
ファックス 0848-60-6770
Eメール kamura.h@violin.ocn.ne.jp
ホームページ
Http://www.7.ocn.ne.jp/~kamura/

広土会の皆様方におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。月日の経つのは早いもので卒業して31年目になり、歳を重ねること53才、体力的にも自信を失くしつつあるこの頃です。

経歴
昭和46年3月、広島工業大学土木工学科卒業
昭和46年4月、広島建設コンサルタント(株)入社 橋梁設計課「現在：(株)ヒロコン」
昭和57年2月、〃 退社
昭和58年3月、和幸土木設計(株)設立
平成4年3月、TAD(株)設立 「現在：(株)アイ・プラン」
平成13年9月、豊田郡本郷町議会議員
家族構成
妻：商社会社勤務 53才 長男：設計会社勤務 26才
長女：食品製造会社勤務 22才 以上

大学4回生の9月に(日本万国博覧会の年)父を亡くし、残された母と妹2人の生活をどのようにしたら良いのか、自分の生き方を真剣に考えなければならなくなりました。当時、父の勤めで某市役所に内定していましたが、私の希望は設計会社に就職することでした。そのような時に広工大の講師であり、広コンの社長でもあった坂田先生に広コンへの入社を誘われ、即座に入社をお願いしました。希望した職場に入り数年が経過しましたが日々、頭の中で「独立したい」という思いが膨らんでいました。決断ができずに十年目に差し掛かった頃、ある事で不満を抱くようになり、この事がきっかけで退社いたしました。

それから1年間は自宅で開業し、S58年には仲間5人で会社を創立しました。その当時は第二次石油危機であり景気も余り良くありませんでした。また'76年に発覚した「ロッキード事件」の公判で橋本登美三郎と佐藤孝行が有罪判決が出た年でもありました。それから数年は業績もあがりませんでした。平成元年頃からコンサル業は一気に業績を伸ばし、私の会社も各コンサルの下請けをしながらお陰で売上も少しづつ上がり、社員も35人になりましたが、それもつかの間、平成11年頃から不況の波が打ち寄せ現在に至っています。卒業して以来31年を振り返ってみますに、ライフサイクルの中で一番大切に思うことは「夢あるいは目標」を持ち続けることが最も重要です。私は独立して数年たった平成2年にある本に出会いました。それはポール・J・マイヤーの著書でその中に ① 考えを鮮明にし、結晶化しよう。 ② 目標を設定するための計画を立てる事。 ③ 心に描いた人生の夢に、真剣に欲望を燃やそう。 ④ 能力に対して、「やれるのだ」と言う大いなる自信を持とう。 ⑤ 障害や批判、周囲の状況にも惑わされず、人々が何を言っても思ってもかまわず、心に描いた計画を強固な決意をもって成し遂げよう。とありました。この5つの事を「少しでも自分の物に」と、決意し小さな夢ですが目標を立てました。会社については、① 小さくてもいいから社屋を建てる。 ② 50歳になったら後輩に譲る。その為には資産を最低2億円は確保する。個人とし

ては、① 50歳になったら100坪程度の家を建てる。以上の目標に向かって走ってまいりました。全ての目標が何とか達成できた時点で自分自身「これで終わった」と思いましたが、人間、欲なもので、今まで広島と東広島に通勤し本郷へは寝るために帰るだけだった「本郷町」のために、何か貢献したいと考え始めました。まず、ライオンズクラブに入会し奉仕活動を少しずつ始めております。

昨年(2022)の9月には縁あって町議会の一員に加えていただき、町の発展のために何をすべきか、資料集めに邁進しています。皆様もご存知のとうり地方分権がいよいよ実行の段階とあり、自己決定、自己責任の原則のもと住民に身近なサービスの提供は、各地域で責任を持って選択されることが求められています。市町村合併の問題は、これからの時代にどのような姿であるべきなのかを決めていく問題だと考えます。これから住民のために精一杯頑張りたいと願っています。広土会の皆様、健康には留意され社会の原動力として益々活躍くださいますように大いに期待申し上げます。



『五日市の友情』

愛媛支部
黒田 茂喜（3期生）

私共建設業界にとって逆風の中、皆様におかれましては御健勝の事と思われます。新年の挨拶に憐中下組の中下社長の所にお伺いしたところ、広土会の新聞の執筆をたのまれ、私の54才の誕生日に書いております。

昨年同期の市川君と松山で何度か飲む機会があり、二人で飲んでいる内に、学生時代の下宿仲間に電話した所、皆で一度集まろうやという事になり、私が世話をして11月23日松山に集まり、ゴルフ及び酒を飲み交わしました。

ゴルフのメンバーは広島から青崎君、福山から市川君、大阪から木村君、三重から田坂君、香川から黒川哲君、そして私の6人で松山シーサイドカントリで、ゴルフを楽しみました。スタートが遅かったせいで最終18番はナイターで二組同時にプレイしました。実力を発揮した人、実力を発揮出来なかった人？もいましたが、最後までわきあいあいとゴルフを楽しみました。夜は松山在住の鳴海君、渡部君、鈴木君もくわわり松山の街で夜遅くまで、30数年前に若返り、痛飲しました。木村君に到っては（新婚さん？）奥さん娘さんを前日より道後温泉に宿泊させ家庭サービスをしてみたいです。黒川哲君は出席者中ただ一人孫がおり24日早期より孫を連れて山陰にカニを食べに行くとの事、孫がおるわりには出席者の中では一番苦く感じられました。出席者全員五日市町に下宿していた仲間です。広工大土木と一緒に学んだ4年間は長い人生のほんの一部でしかありませんが、私達が4年間にはぐくんだ友情は、人生を終わるまでの友情だと思っております。

今度はもっと多くの人に声をかけて、福山でやろうよ、市川君、宜しくたのみます。

私達の業界は公共事業がマスコミ等で悪の根源という様な言われ方をされ、又公共事業削減という事で、非常に厳しい時代になりました。今まで私共が日本の経済の一部を支えてきた事も事実であり、今後も支えていかなければならないと考えます。私共の年令になると、こういう厳しい時代、リストラ、減給とか、身近に感じられますが、一年一年全力でぶつかり、又友と友情を交わしたいものです。私共が施工した土木の作品を誇りに思い、残り少ないサラリーマン生活を充実したものにしたいものです。

最後に厳しい時ですが、“明日がある”“明日がある”“明日があるさ”の明るい気持ちで皆さん、頑張ってください。



『雑談』

阿讃支部
齊藤 康徳（5期生）

寒気厳しき折り広土会会員の皆様におかれましては、それぞれの分野の中核職として元気で活躍のことと存じます。

さて私事で申し訳ありませんが、広工大へは昭和44年に入学し学生番号は今でも覚えています。当時は桜井主任教授、岡野教授、河内教授等々、最強の布陣で教わり学生生活を楽しく有意義に過ごすことができました。学園は緩やかに傾斜した地形と樹林を生かして段々に講義棟が設けられ、入口から最奥の電子工学課の実験棟まで歩けば結構良い運動になりました。事務棟の広場周辺に植わっているツツジは毎年春になればきれいな花を咲かせ、ベンチに座って瀬戸内を眺めると厳島がどっしりと海面に横たわった櫓やかな広島湾が思い出されます。

私は香川県庁農林水産部に入って約30年近くになります。その中の構造改善局からの補助を受けて実施する農業農村整備事業を担当しています。

香川県では“みどり豊かで、うるおいと活力のあるむらづくり”を基本に独創性豊かで、多彩な香川型農業の確立を目指して推進しており、その中の主にハード事業が農業農村整備事業です。事業は市町が事業主体となって県が指導審査する団体営事業と、一定規模以上または2市町以上にまたがる大規模なものについて県が事業主体となる県営事業があります。私はこの県営事業の中で昨今、中央で話題となっている道路特定財源の補助を受けて実施する農林漁業用揮発油税財源身替農道、どうして農免になるかは分かりませんが略して農免農道事業を担当しております。農道と言っても全幅7.0mあり、路線によっては歩道3.5mを加えて10.25mで実施しているところも有ります。このため道路計画は道路構造令により法線等を決定しています。また全て新設の農道ばかりでルートは受益地である農地を縫って国道または県道へ接続します。新設のため農道用地の用地取得と、ルートによっては家屋の移転補償が必要となることもあります。用地単価は水田、畑の場合、国・県道と比較して受益者の農道ということにより算出基礎が異なり大幅に安く押さえられているためと近年の個人の権利意識が強いためスムーズに契約とはならない場合が始どです。

農業農村整備事業の下に各種の事業があり、その内容が多岐にわたっており中には機能的には市民会館と同じ施設の農村環境改善センターとか農村に作られる公共下水道に代わるものとして集落排水等が実施できる事業もあります。

海岸は、その管理者によって国土交通海岸と農林海岸があり、その内、県管理農林海岸を海岸保全事業として護岸の整備あるいは利用形態によっては臨海公園等の環境整備と併せて海岸管理区域の整備を実施している地区もあります。

香川県はかんがい用ため池の数が総数16,304ヶ所有り、兵庫県、広島県について全国第3位ですが、ため池密度では全国第1位です。その中で全国的に知られているため池が空海（弘法大師）ゆかりの満濃池であり貯水量が1,540万㎡あります。

香川県の西部には昭和5年に築造されたかんがい用ため池の豊稔池があり、この豊稔池堰堤を築造後半世紀余り経って県営農地防災事業で改修し平成6年3月に完成させています。この豊稔池は貯水量159万㎡を擁し農地530haをかんがいする農業ため池です。

この堰堤は特異な形で全国にその名を知られていますが、それは堰堤が全国で唯一マルチプルアーチダムとして築造されていることです。昭和初期の時代に常識的な工法を採用せずに画期的なダム形式を大胆に採用しているばかりでなく、洪水吐をサイフォン形式にするなど随所に斬新な設計を取り入れております。

以上、農林水産部の内、管轄する多岐にわたる各種事業の一部を紹介してきました。私は50歳を過ぎ、最近では体力的に老化を感じることも多くなり常日頃の健康管理の必要性を感じております。休日の天気の良いときは登山とかウォーキングをするよう心掛けています。40歳を過ぎた頃には中型二輪で鳥取の大山へ単独で行ったこともあり、登山口までの足に二輪を時々利用しています。これも仕事から来る疲れ・ストレス等の解消になると思っており、これからも続けるつもりです。

最後になりましたが、広土会会員皆様の益々のご活躍とご健勝、ご多幸と広島工業大学の更なる発展を御祈念申し上げます。



近況報告

山口支部長

渡辺 勉（6期生）

山口支部の第13期生、大野秀生さんが山口県建設技術協会アイデア工法の最優秀賞を受賞されましたので概要を報告します。

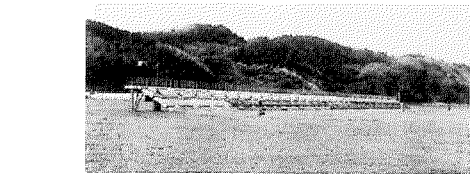
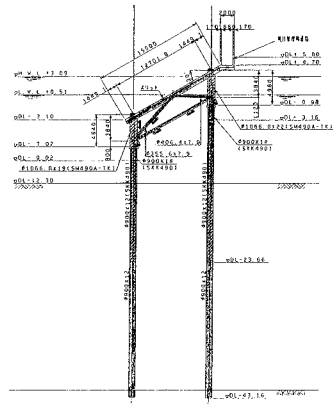
これは、徳山市水産課で徳山市大津島字馬島の場合において大津島漁港漁港修築事業（防波堤、護岸、船揚場、物揚場、浮桟橋等）の担当となり、調査の結果防波堤計画位置の水深が深く、海底地盤が軟弱で支持層が深いため重力式等の地盤改良による工法は不適と判断し経済性、施工性、機能性、環境について最も優れた傾斜板式防波堤PSR

（Pile Supported Reef）を採用したものです。

この特長は、1. 漁港の外かく施設である防波堤、離岸堤などに求められる基本的機能に加えて反射波が小さいという特長を有し、小型船舶などへの影響を最小限におさえる。2. 比較的大きな水深、軟弱地盤などにおいて従来の工法に比べ特に経済性を有する。3. 上部の遮蔽面積が小さく、下部が透透性の構造のため海水の交換が優れ港内の環境保全が図れるため、延長180mを4年間で設置する漁港整備を行なっています。

今後の技術的課題は、上部工の工場製作に関しては、鋼管と鋼管の溶接箇所が円と円で斜めに交わるために切断が非常に複雑となり加工において高度の技術が必要となる。

また、現場施工においては、長尺の鋼管杭（最大L＝57m）と上部工をドッキングさせるため（±5m以内）の精度が必要となり鋼管杭の打ち込みに際して高度の技術が必要となる。さらに、新技術であるため構造計算において実験結果などが多く計算根拠が確立されていない。が当防波堤は静穏度（40cm以下）を確保する目的で設置されたもので、全国でも最先進的な工法の採用例として注目を集めています。最後に、広土会と会員皆様方の益々の発展とご健勝をお祈りいたします。



「広土会「広島西支部」発足の報告」

広島西支部長

宮田数行（4期生）

発足の経緯

平成13年7月14日、広島支部より分離し、廿日市市以西の大竹市、廿日市市、大野町、湯来町、佐伯町、吉和村及び宮島町をエリアとする「広島西支部」が発足しました。

若い会員から、「マンモス化しつつある広島支部の将来像と広土会の発展面を覗んだ場合、少し小規模な支部を立ち上げた方が活動面において有利ではなかるうか」との声がきっかけで、「広島支部」を冗費分とする「広島西支部」が立ち上がった経緯です。

発足準備会

新しい支部は、若い会員が動きやすいように『運営は若い会員でする』をスローガンに、発足準備会を平成13年春に組織し、会員名簿の再編から着手し、運営する役員候補の選定を行いました。（が、お気付きでしょうかが現支部長は若くはありませんが、いろいろな事情から結果的にはお引き受けしました。）

発足会・総会

・平成13年7月14日(土)17時から佐伯郡大野町「宮島コーラルホテル」にて開催

広土会本部の大学から、島会長、二神先生、伊藤先生、鈴木先生、村中先生と、広土会本部の景山副会長、竹内幹事長、三浦副幹事長、河原幹事、広本幹事、舩繁幹事、林幹事のご臨席のもと、会員32名が出席して発足会と総会を無事終え、11番目の支部としてスタートしました。

ご臨席のみなさまからのお祝い並びに各支部からの祝電ありがとうございました。

広島西支部発足記念ゴルフコンペ

・平成13年9月2日(日) 金城CC
60名余の参加のもと、狹戸尾浩さんが見事優勝されました。

第1回広島西支部特別講演会

・平成13年12月1日(土) 15時～17時

内容

- ①「メコン紀行」
講師 広島工業大学建設工学科 島 重章先生
- ②「これからの銀行取引について」
講師 元広島総合銀行廿日市支店長 横山 勝先生
- ③「心」
講師 古武道第19代「神祕神見流」 中興伝師 無双神伝流居合道教士7段 中本 積先生

その他会員相互の親睦と交流を目的に「釣り」や「ささやかな懇親会」も開催しました。支部会員200名余全員参加は夢とは思いますが、気軽に参加できる行事を通して、広土会の発展を目指して微力ではございますが、支部役員全員で頑張る所存でございますので、今後ともよろしくお願ひします。

また広島西支部開催の行事につきましては、支部内外は全く問いませんので、広土会のみなさまの気軽な参加を期待しております。

最後に、支部発足にあたりまして、広土会本部と広島支部はじめ各方面からたくさんのご支援をいただきました。ありがとうございました。

「広島西支部」の広土会会員数

市 町 村	会 員 数
大 竹 市	26名
廿 日 市	122名
大 野 町	30名
湯 来 町	10名
佐 伯 町	13名
吉 和 村	1名
宮 島 町	1名
計	203名

役員名簿

支部長

4期 宮田 数行

副支部長

5期 永原 和裕, 9期 原田 忠明, 12期 長谷山弘志

幹事長

4期 石田 洋一

幹事

1期 栗本 裕二, 1期 柏本 哲也, 2期 狭戸尾 浩,
5期 神田 孝文, 10期 三崎 一美, 14期 山下 重成,
26期 中宥 大作, 27期 國本美枝子

会計

24期 松本 太郎

会計監査

7期 堀内 眞, 19期 中村 竜誠

事務局長

8期 川下 澄夫

副事務局長

9期 細川 進, 23期 石田 秀文



支部講演会



支部総会



支部講演会



支部総会

「H13年度 広土会島根支部総会の報告」

島根支部

岩井 卓二 (25期生)

平成13年度広土会島根支部総会が11月17日土曜日、松江市のパレスティーマがたまを会場として開催されました。総会に先立ち意見交換及び技術講習会(講師 島先生 宮崎先生 参加者18名)が開催され意見交換の場では、1人1人自己紹介を兼ね大学時代の思い出、卒業してから現在までの体験談等を交え様々な意見、質問等のやりとりがおこなわれました。

技術講習会では、メコン川を中心とした東南アジア河川調査について、島先生がスライド写真により現地の実態、日本の河川との違い等講義されました。

宮崎先生は、技術士について講義(技術士とは、試験の制度、試験問題、問題解答のポイント、勉強方法等)され今回参加者(既技術士取得者)の意見、アドバイス等を交え、沢山の質疑応答の場となりました。

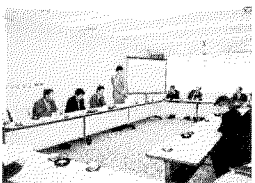
総会は、小糠支部長の挨拶で始まり内田幹事により次第(事業報告、平成13年度事業計画、会計報告、規約改正、支部役員、会員名簿)どおりに進められ無事終了しました。総会終了後の懇親会には島先生、宮崎先生、総会参加者全員が参加し盛況な会となりました。

転勤等で島根県に勤務される方がおられましたら是非、事務局まで連絡いただき、総会へ参加していただきたいと思ひます。

最後に、島根県は広島県と隣接しており工大在学中、友達とドライブ、スキー等で来県された会員の方は大勢おられると思ひます。大変田舎なのですが自然に恵まれ離島(隠岐)及び多くの名所が存在します。中国地方で勤務されている方、家族、仕事仲間と一緒に是非おこしください。



懇親会



総会・講習会

支部長会議報告

平成13年度総会・第10回広土会支部長会議

1 日時・場所

平成13年7月28日(土) 15:30~17:45

東方2001(広島市東区光町2-7-1)

2 出席者(敬称略)

(会長) 島 (会計監査) 二神 (広工大) 皆田, 宮崎, 伊藤, 大東 (会計) 村中 (関東支部) 片桐 (関西支部) 佐賀 (県東部) 柳川 (県北部) 和田 (広島西) 宮田 (島根) 小糠 (阿讃) 川西 (副会長) 徳山 (幹事長) 竹内 (幹事) 三浦, 河原, 出口, 広本, 林 (広島西) 石田, 川下 (学生幹事長) 廣居 (学生副幹事長) 杉田 (学生幹事) 久保, 福谷

3 議題

- (1) 会長挨拶
- (2) 出席者紹介
- (3) 平成12年度会計報告・事業報告
- (4) 平成13年度広土会役員選出
- (5) 平成13年度予算案・事業計画
- (6) 各支部報告

4 懇親会

東方2001 18:00~20:00

新しく発足した広島西支部の役員が加わり懇親会を開催

技術士講習会



平成13年度技術士受験について
「明日はいらない、今日があれば。」

石田 洋一 (4期生)

平成13年8月22日(水)午前9時から広島工業大学にて、平成13年度技術士第二次試験が行われて、私は建設部門(建設環境・自然環境)を受験した。

その日は、晴天でやや残暑の日差しが強い日中であった、大学の正門より正面の急な坂路を、早足で駆け上がり本館に着いた、そこで試験会場を確認し日陰で風通しが良く、雑音の余り届かない階段の周囲に身を休めたが、持参した鞆の中の経験論文や出題予想論文を取り出し、目を通して見る様なしぐさでもその気も無かった、今更往生際の悪いという思いと、何故勉強しなかったかという後悔の念が重く身を包んだ。昨年来からコツコツと勉強はした、経験論文も800字原稿で5枚書いて、宮崎先生に添削して貰い内容についても称賛して貰った。この原稿を暗記する事と心に期したのが8月頃で、予定では7月、8月で完璧に覚えるつもりだったが……7月はビヤガーデン、居酒屋等に入り浸り、8月は同窓会や盆休みでやはり飲んだ、アルコール漬の日々であった、試験勉強をするかと思ひ立ったのが、盆明け19日から今日が22日「あ〜ダメだ、人間失格だ……」、何か投げ遣りで玉碎的な雰囲気が高い、私の全てを支配するかの様な時の流れが過ぎて行った。

試験開始時刻が近づき、私は絶望という深い渦の中をままれながら、試験会場に入り受験番号の記した机の前で、さり気なく周囲を見渡すと、自分以外の受験生は全て天才、秀才の顔に見え、合格者の顔にも見えた、また強い絶望感が襲ってきた。

午前中の試験科目は、経験論文で3時間で800字5枚であり、私は3業務の経験論文を構想し、主論文(A業務)を原稿3枚、従論文(B・C業務)を原稿1枚と予定していた。試験設問を見た、「アッ……2業務……エ〜違う……」、パニックした2業務について原稿5枚にまとめるとは、構想が崩れた修復が困難だ、2業務では原稿4枚にしかまとめられない、原稿枚数を減らすのは、難しいけど可能だが、増やすのは不可能にちがひ……時間が過ぎていく、考えるより書こう……やっとならぬA業務3枚が済んだ、残り時間が1時間……B業務を2枚記述しよう……残り時間は20分、原稿0.5枚分の記述が足りない、何か……事項が欲しい……タイムアップ、どうにか補足した感はあるが、内容的には?が付くかな〜。

本館の試験会場前の、庭園の木陰の芝生に座り一人昼食を食べたが、何か食欲も無く砂利を噛む様であった。経験論文の記述をした内容が思い出せない、内容的に不安感が募る何を記述したのだろうか、明確なのは原稿用紙4枚と3/4枚分記述した事ぐらいだ。午後からの受験は、逃亡しようかなという激しい誘惑に心が揺れたが、心機一転し持参した鞆の中から、出題予想論文を取り出し目を通す事にした。GPS, GIS, ITS, GDP, GNP, PFI, VE, CS……国民総生産、性能設計、価値工学、地理情報???, アレどれが、意味は……イカン、アルファベットが迫ってくる、脳味噌の中で踊っている。

午後よりは、午後1時から5時迄で、建設一般と専門(I・II)論文が、2+3+2=7枚(800字/枚)と、本年度より採択された5問択一問題が15題あった。論文設問は、概ね予想が出来る問題で建設一般では、少子化高齢化、社会資本整備、説明責任、IT革命等々がキーワードであり、専門では富栄養化、アオコ、自然との共生等々がキーワードであったが、過去の設問の繰り返しの様なものもあったが……一応所定の原稿枚数はクリアしたが、未だ内容的には不明のままで、午前中と同じ様に時間が……と時間に追われる感があった。5問択一問においても、昼食休憩でアルファベットが迫って、脳味噌の中で乱舞したのが結果オーライであった。

時刻は午後5時を過ぎ、私は全ての試験を終え急な坂路を、ゆっくりと下っていた、どこかの“缶コーヒ”のコーンソングを口ぶさみながら「明日があるさ……」来年こそ頑張ろう、継続は力なりと心に誓って……。

平成13年12月8日(日)午後4時30分、東京都豊島区東池袋のサンシャインビルを眼下に望みながら、技術士二次試験に臨む私が、緊張に包まれ強い決意を胸に刻み、そこに立っていた。……「明日はいらない、今日があれば」……。

3期卒業30周年

3期の学生時代と卒業30周年目の今



中田 秀穂 (3期生)

誰かに「今年で卒業30周年で」と言われて、エー! ホントカー! 大学を卒業して毎日忙しく生活をしているうちに早や30年も過ぎていたのか?……何てコッター。

大不況である今、各地より30数名の参加を得て、鈴木先生、皆田先生を囲み、2001年11月17日(出)、広島国際ホテルで学生時代へタイムスリップした。

30年ぶりに顔を会す者は、最初「エート」「ウー」と互いに妙な掛声で親睦の儀式を始めた。

誰かが、こいつは〇〇君ヨ! と、言うのと「オー」そうそうと言って、指を前に出し上下にふり笑顔になり30年という時間を一瞬の内に飛び越えて、会話が始まる。

今の仕事や家族の話、そうそう、すでに孫が何人もいる話とか、でも内容とは関係なく気分は、すでに学生時代に帰っている。

青春のある時期、ほとんどの者は、体制に反抗し、命令されれば、それとは反対の事をする。自己中心的な処があった。

卒業して30年も世の中を経験すると、態度こそ面影が残っているが、物言はとげとげしさがとれて、丸くなった会話が出来るようになっている。……少しさみしい気分。

団魂の世代まっただ中の等々は、何人でもよく競ったものだ。……私は、争う事はざらいである。

でも全学中では、3期は、一番チームワークの良い仲間達であったと記憶している。

クラスマッチでは、4年間常にトップクラスであった様に思う。

ライバルは建築であった。

いつもNo.1を狙う為か、なかなか自分の思う種目に出場させてもらえなかった者もいた……私は、野球に出場しなかったのであるが、希望者が多く腕力の強い者も多く、いつもテニスでの出場であった……野球に出場させてもらえなかった事を根に持っているよ! 〇〇君。

どういうわけか3期の皆は、どこでも大声でよくしゃべる……私もよく家族に声が大きいから小さい声で話せと言われる。

こんな私達だが、30年もタイムスリップして学生時代に帰っているのだから、会場が大声で一ぱいである。

この日は、ひとつのフロアーに3組の会があったが、時々もう少し静かにして下さいと、苦情が2回、有ったとか無かったとか……元氣な証拠。

今、大変な立場にいる者、これから大変な立場になる予感をしている者、少し体形が丸くなった者、細くなった者、又、頭が白髪になった者、髪がさみしくなった者、今の自分を忘れた、これ以上ない大切な時間であった。

けっして増える事のない仲間、何年後か健康に留意して元気に再会し、大声で話し合いたいものだ。

(追伸)

最近、小説でも何でも人情有る温かいものに触れると涙脆くなってきました。

思いたくはないが、少し歳を取ったと言う事かな。でも、すなおに感動できる喜び、悔いのない人生を!

再会

ホームページ開設

広土会ホームページについて

会員の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、本部では一昨年より、広土会のホームページを掲載いたしております。

平成13年6月より、住所不明者をホームページに掲載いたしましたところ数十件の問い合わせがございました。徐々にではありますが会員の皆様に浸透してきていると思ひます。本年度は、広土会新聞の掲載を考えております。

アドレス: <http://diamond.cc.it-hiroshima.ac.jp/>
以上 ご意見、ご要望等ございましたら下記の連絡先にご連絡下さい。

できる限り FAX か Email でお願いいたします。
〒731-5193 広島市佐伯区三宅2-1-1

広島工業大学工学部建設工学科内広土会

E-メール: mura@cc.it-hiroshima.ac.jp

TEL (082) 921-3121・FAX (082) 923-7083